vol. 04
2016 winter

教職コンソーシアム通信

学びの架け橋

人にまっすぐ。
大阪教育大学

01 学びの架け橋に寄せて
02 リレーエッセイ
03 加盟校出身学生・卒業生紹介
04 交流事業の紹介
07 加盟校の取り組み紹介
08 大学トピックス／編集後記

『学びの架け橋』に寄せて

豊中市長　浅利 敬一郎

昨年11月初旬、久方ぶりに、母校・大阪教育大学のキャンパスを訪れる機会をいただきました。卒業・修了生が集う第１回目となるホームカミングデーにあたり、講師の任をいただいたのです。昨秋は例年より暖かかったせいか、紅葉はまだでしたが、美しい山なみに囲まれたキャンパスには、年代様々な同窓生の皆さんが集ってくださっていました。

卒業生とはいうものの、私の入学は昭和40年（1965）。当時は、池田市にあったキャンパスに通いました。在学中に学名が、「大阪学芸大学」から「大阪教育大学」に変わった数少ない世代です。学生時代は、学業よりもむしろクラブ活動に没頭していました。入学時には２部校であった陸上競技部を、１部校に昇格をとの共通の目標を持ち、練習や合宿に打ち込みました。陸上は個人競技ではあるのですが、部員全員が切磋琢磨しながらチームで取り組んだ、学生時代を思い出します。

卒業後は、寝屋川市で11年間教職に就きました。赴任した学校で、３年先輩の久保先生との出会いがあり、生徒との信頼関係が強い学級運営にあこがれ、様々教えていただきました。待ったなしの学校現場、毎日いろいろなことが起こり、対処が求められます。「教えをこうのはいいが、人まねでは駄目だ。とにかく自分のやり方でぶつかってみよう」と気づきました。こうして、現場でもまれ、事が起こった時こそ冷静に判断する、的確に指示を出すという力が培われていったように思います。私はその後、教育委員会や市行政といった違う世界に飛び込むことになるのですが、その時々に素晴らしい人との出会いとともにこの力が、自分自身にとって大きな自信となりました。

「府立高校教職コンソーシアム」は、府立高校32校と大阪教育大学との連携交流により、次代の教育を担う人材養成のための取組みを展開されていると伺っています。教育現場では、先に述べたように咄嗟の判断が求められる厳しい場面もしばしばです。しかし、教師は、子どもたちや保護者の皆さん、教職員など様々な出会いに恵まれ、そうした出会いを自分の力にしていける人間味あふれた豊かな職業であると思います。当事業での学生・教師の皆さんの出会いが、次代の教育を支える大きな力の源となりますことを心から期待しております。

RELAY ESSAY
リレーエッセイ

一期一会

大阪府立生野高等学校　梅田 和子

私は、北九州市八幡東区で生まれ育ちました。八幡には、1901年に操業を開始した官営の八幡製鉄所があり、小学校時代、社会見学で、溶鉱炉から真っ赤になって、どろどろに溶けだした鉄を見た時はすごいと思ったものです。

私は、小学校に入る前より、好奇心が人一倍旺盛で、なんでも理由を聞きたがり、母によく怒られたものです。高校は地元の県立八幡高校に進学しました。2年の時、ある授業時間中、クラスの誰かが担当の先生に、「授業が面白くない、教科書に載っていることは読めばわかるから、それ以外のことを教えてほしい」と言いだし、私も同様の意見を言いました。今、考えると生意気で失礼なことをしてしまったと思いますが、皆、学ぼうという意欲がとても強かったと思います。高校卒業後は、大学に進学したいと思いましたが、父は「女は大学など行かんでいい」という考えで、叔母が父を説得してくれて、やっと大学を受けることができました。

高校時代には、忘れられない先生との出会いがありました。それは、3年の担任であった国語の女性の先生でした（女性の先生はとても少なかった中での）。堂々として迫力があり、引き込まれるような素晴らしい授業をされる先生でした。終礼には教室に来られず、簡単な連絡ならばクラス委員であった私から皆に伝えるようにと言われていましたが、受験の約一か月位前から、終礼に来られるようになり、ある詩を暗唱するように指示されました。それは、江戸時代の頼山陽の「天草灘に泊す」という漢詩でした。卒業式の前日まで、終礼の時間にクラス全員で立って諳んじました。卒業式が終わって、職員室に呼ばれ、この詩をそこで諳んじるように言われました。諳んじ終わった後、「これで大学は合格する、テストの始まる前にこの詩を諳んじなさい」と言われ、その通りにしたところ、見事合格しました。先生は、私の心の弱さを見抜いておられ、受験の直前に自信を持たせてくれたのだと今になって思います。

大学卒業後の進路については、高校時代には、「女性でも自立できる仕事に就きたい」と思っている程度でしたが、大学時代に出会った友人のお姉さんの影響で、私も教師をめざすことになったのです。彼女は、大学を卒業後、大阪の高校の教員をしていました。彼女の家には、夕方になると数人の生徒たちが集まって来て、わいわいがやがやと生徒たちとやり取りをしている、そんな彼女の姿はとても生き生きと充実しているように見えました。

教員になったと高校3年の担任の先生に報告に伺った際、「教員になると決めたからには、一度でも、教員という仕事が嫌になったら、その時はやめなさい」と言われていましたが、幸せなことにずっと教員を続けてきました。それは、教員という仕事が、生徒を教え導き、育てるという、とてもやりがいのある仕事だったからです。

今、社会は大きく変化しています。子どもたちが未来に希望を持ち、そして未来を切り拓き、自立した社会の形成者となっていけるよう、これからの教員に求められる役割はますます重要なものとなっています。

教職をめざす、高校生の皆さん。私が、担任の先生から教えていただいた「一期一会」の言葉のように、あなたとの出会いを待っている子どもたちがいます。あなたの夢をかなえ、ぜひ素晴らしい教員になってください。

梅田 和子　うめだ かずこ
大阪府立生野高等学校校長

STUDENTS & GRADUATE VOICE

加盟校出身学生・卒業生の紹介

Intro duction

吉村 駿汰（よしむら しゅんた）さん

教員養成課程数学教育専攻1回生
泉陽高等学校2014年度卒

—学生生活はいかがですか？
昔から数学が得意でしたが、大学数学は高校までの数学とは全く別物。先生の話に耳を澄ませ、友人と確認し合っています。それに、数学教育専攻には、日常の出来事を数学に例える“数学科トーク”があって、ネタ元の理論がわからないと楽しめないので、頑張って授業に集中しています。

—勉強以外ではどんなことを？
同じ専攻の友人「きっしー」「ねっしー」と、数学教育や大学の小ネタを紹介する自主制作ラジオ「よっしーきっしーねっしーのシャンシャンいこうぜ！」をYoutubeで配信しています。もともとは動画の編集技術を磨こうと始めましたが、ラジオの魅力に取りつかれて、今ではどっぷりです。おかげで、頭の回転も速くなりましたし、声ですべてを表現するので、大きさ、抑揚、言葉の言い回しの工夫は、教師になっても役立つはずです。

—キャンパスガイドでも大活躍でしたね。
前に立って大学紹介のプレゼンをしました。教室中から笑い声が上がって気持ちよかったです。いかに生徒を引き付けるかが教師の生命線ですから、ラジオ制作もそうですが、教師になった時の引き出しを増やすために、いろんなことに挑戦していきたいです。

—なぜ教師になろうと思ったのですか？
高校デビューに失敗して、一時期は殻に閉じこもっていたのですが、2年生の合唱コンクールで企画した、クラスメート一人ひとりの一言紹介が大反響で、自信がつきました。人それぞれいろんな才能があるはずで、それを発揮するきっかけがつかめない子のために、教師になって殻を破る手伝いをしたいです。

—後輩にメッセージを。
泉陽生は先陣を切って行動する人が多いですが、大教大はそういった芽を育む環境があります。山の上のキャンパスで、のびのび個性を伸ばしましょう！

和田 栄（わだ さかえ）さん

教員養成課程音楽教育専攻1回生
泉陽高等学校2014年度卒

—大学生活はいかがですか？
大好きな音楽を中心に学べるので、毎日が楽しいです。授業ではよく、自分たちが受けてきた音楽教育を振り返りながら、簡単には目に見えない音楽の教育について考えます。また、クラスメートの指揮で合唱したり、ピアノ伴奏を聞きあったりした後に講評しあう、皆の前で歌い弾きするなど、実践授業も豊富です。皆、出会ってからまだ半年なのに、何年も一緒にいるような感覚で、性別を超えて仲が良いです。

—なぜ音楽教育の道に？
中学、高校と合唱部で活動して、声を使って自分を表現し、周りと調和して旋律を創り上げる過程から、情操教育の大切さにふれ、子どもの自己表現や人格形成に、音楽を通して関わりたいと思うようになりました。泉陽高校では音楽の授業で、ジャンルを問わず皆が自由に音楽を発表する機会があり、人前に立って演奏するいい経験になりました。

—本学に入学したきっかけは？
総合大学で音楽教育を学ぶという、ちょっぴりイレギュラーな存在になってみたいという憧れもあり、悩みました。決め手は、オープンキャンパスで見学した音楽棟の施設が、音楽大学のように充実していたことと、教育分野だけでなく、音楽の専門的な知識や技術もしっかり身に着けられると担当の先生方が丁寧に解説してくれたことです。

—どんな学生生活を歩んでいきたいですか？
いろんなジャンルの音楽にふれて感性を磨き、声楽もピアノももっと研鑽を積んで、子どもから憧れられる先生をめざします。今やっている、スタディ・アフター・スクール※の学生指導員、障がい児の放課後児童デイサービス施設でのヘルパーの経験を生かして、子どもとの関わり方をこれからも時間をかけて学び、人としての幅を広げるためにいろんなことにチャレンジしたい。残り3年間を大切に活用し、教師としての糧にしていきたいです。

※…本学と柏原市が連携して展開する放課後学習支援事業

府立高生が大教大をまるごと体験「大阪教育大学キャンパスガイド2015」を開催

府立高校教職コンソーシアム加盟校生徒・教員を対象に「大阪教育大学キャンパスガイド　大教大をまるごと体験しよう！」を11月21日(土)、柏原キャンパスで開催し、約280人が参加しました。

開会にあたり栗林澄夫大阪教育大学長は「人工知能がどんなに発達しても、人を教えるのは、人でなければなりません。本学は、人を育てる教員を育てるという、大変意義深い役割を担っています。今日は本学の魅力を存分に体感してください」と生徒たちに呼びかけました。

続く大学紹介では数学教育専攻の学生3人組「よっしー・きっしー・ねっしー」が軽妙な掛け合いで笑いを誘い、府立高校出身学生が案内するキャンパスツアーでは、講義棟や附属図書館、道場を備えた体育館など、様々な施設を見て回りました。さらに、著名教授による講義体験、学生や教員が高校生の質問に答えるコーナーなど、多彩な催しが繰り広げられました。

参加した生徒からは「先輩方や先生の話を聞き、大学の雰囲気を見て、ぜひこの大学で勉強し教師になりたいと思った」「大学生はかっこよくて、2年後には自分もあんな風になれるのかなと楽しみになりました」「堅い印象が強かったが、良い意味で崩れた。とても良い大学だなと思った」などの感想が寄せられました。また、キャンパスガイド後のアンケートでは、実施前から教師に「なりたい」「なってみたい」と思っていた生徒が約4割だったのに対し、実施後には約8割と倍増し、大きな効果があったことが示されました。

中西正人大阪教育大学理事・副学長は、「コンソーシアムとの連携事業はまだ始まったばかりの取り組みだが、志の高い生徒に入学してもらうだけでなく、大阪の教育力向上の一翼を担いたい」と意欲を語りました。

栗林澄夫学長

「よっしー・きっしー・ねっしー」の大学紹介

キャンパスツアー

質問に答えるコーナー

作文コンクール“Leading to the Future”表彰式を開催

府立高校生対象の作文コンクール「Leading to the Future 未来に向かって －教師・夢・感動－」の表彰式を、大阪教育大学キャンパスガイドと合わせて開催しました。

栗林澄夫学長から賞状が授与された後、最優秀賞の中井里佳子さん（生野高3年）、優秀賞の杞山穂花さん（清水谷高2年）と中江瑞季さん（生野高3年）が、恩師とのエピソード、教師になりたいと思ったきっかけ、夢への意気込みなどを綴った作文を朗読し、参加者は真剣な表情で聞き入っていました。

さらに「理想の教師像」をテーマに、受賞生徒と大学教員、府立高校長、大学生がパネルディスカッションを行いました。受賞した3人がそれぞれめざす教師像を語ると、教員からは「生徒理解の根底は自分理解。自分の原点を見つめ直して」「現実はこうだと割り切るのではなく、夢を抱くことが大切。夢をもつ生徒がいたら実現を手助けするのが教師の仕事だ」など、熱いメッセージが送られました。

◇作文講評（連合教職実践研究科 田中滿公子准教授）

作文を読んで、教師にとって大切な点を再認識しました。第1は「教師が生徒を信頼することの大切さ」です。全員が先生との出会い、先生の言葉や行動に触れ、人生を左右するような場面を描いていました。教師のこういった言動の土台には生徒への信頼があり、生徒本人も気づいていない才能を信頼して見守り続けることの大切さを再認識しました。第2は「学び続けることの大切さ」です。小学生には小学生の問題集があり、中学校、高校、大学と進んで、大人になっても問題集があるのです。それを常に前向きに、時には悩みながら懸命に解いている姿を見て、生徒たちは「自分も頑張ろう」という気持ちになるのかもしれません。「共に学び、共に育つ、学び続ける」教師を目ざしたいものです。今回作文を書いたことで自己の内面を見つめ、教師という仕事について理解を深めたことを、今後も発展させてくれるならとても嬉しいです。

◇受賞者一覧

賞	高校名	受賞者
最優秀賞	生野高等学校	中井 里佳子
優秀賞	清水谷高等学校	杞山 穂花
優秀賞	生野高等学校	中江 瑞季
佳作	夕陽丘高等学校	松尾 早彩
佳作	和泉高等学校	西野 佑香

賞	高校名	受賞者
佳作	千里高等学校	河村 奈々
佳作	八尾高等学校	池田 裕城
佳作	夕陽丘高等学校	松本 文香
佳作	豊中高等学校	樋口 真歩
佳作	大阪府教育センター附属高等学校	木村 美結

作文を朗読する中井里佳子さん

受賞者のみなさん

「生徒指導・理解」を深める教師塾「教師の学び舎」第2クールを開講

府立高校教職コンソーシアム加盟校教員を対象とする教師塾「教師の学び舎」の第2クールが、10月17日(土)、11月7日(土)、12月12日(土)の3回にわたり天王寺キャンパスで開講されました。

「教師の学び舎」は、実践力向上と得意分野の開拓に役立てることを目的に、1クール3回完結の講義を提供しています。第2クールは「生徒指導・生徒理解のために」をテーマに、元小学校教員でカウンセラーの家近早苗教授(大学院連合教職実践研究科)が、学校で使えるカウンセリングの技法や生徒の問題状況に対するアセスメントの進め方について、具体的な事例を交えて解説しました。

家近教授は「コートを買う場合、どのような基準でえらぶか」を受講者に考えさせることで、生徒の問題状況に対応する場合も、情報を収集・分析して、方針を決定することが必要と説きました。不登校児童についても「継続的に情報を集め、タイミングを見て働きかける」「学校に行くこと・勉強することの意味を見いだしてやる」「学校と保護者、子どもをつなぎ、支える」といったことが大切だと語りました。

また、11月7日(土)の講義では、特別講演として、日本ポジティブ教育協会代表理事の足立啓美氏が「今、グローバル人材に欠かせない『レジリエンス』とは？」と題して、レジリエンスを育み、変化とそれによるダメージに耐え、新しい成長につなげるための手法について講義しました。

3回の講義を終えて、参加者からは「今まで『支える、寄り添う、理解する』努力をしてきたが、これからは『構造的に、論理的に、理解できるように説明する』ことをめざしたい」「具体的なアプローチの方法を学べてとても有意義でした」「生徒の受け止め方・捉え方はもちろん、自分の仕事に対する姿勢や生き方にも良い刺激をたくさんもらいました」などの声が寄せられました。

家近早苗教授

足立啓美氏

中西正人理事・副学長が修了証書を授与

参加者が講義の感想や思いを共有

加盟校の取り組み紹介 MEMBER HIGH SCHOOLS' PROGRAMMES

大阪府立八尾高等学校

明治28年創立の府内屈指の伝統校で、「剛健質実」「文武両道」の校風を今も受け継いでいます。そして、「学び続ける力」と「人と繋がる力」を備えた、真に社会貢献のできるリーダーとしての基礎を身に付ける教育活動を展開しています。今回は、大阪教育大学との高大連携、本校独自の「アドバンス教育コース」等の取り組みを紹介します。

＜新入生宿泊研修＞

「八尾高生になる」ための学年行事です。入学して間もない４月に『八尾高生としての自学自習の仕方』『人間関係づくり』を目標とする、自学習漬け、携帯・スマホ持ち込み禁止の一泊二日の研修です。

学年の生徒全員が一堂に会して黙々と自学習に取り組む姿は圧巻で、八尾高生の底力と大きな可能性をみることができます。

＜大阪教育大学との高大連携＞

大阪教育大学天王寺キャンパスでの講義を本校生が大学生と一緒に受け、大学生と同じ試験・レポートをこなすという画期的な連携です。毎年50名超、14年目を迎える今年度までで延べ1073名もの八尾高生が受講し、「大学生の広い視野と深く考える姿勢から学ぶことは多く、刺激的」「大学生の授業を受ける姿をみて、高校の授業に取り組む姿勢が変わった」「進学して大学生として学びたいという意欲が強くなった」等の感想を残しています。

＜大学の先生方による出前講義＞

大阪教育大学を中心に大阪大学、関西大学の協力をいただき、後期に8回実施しています。1、2年次生全員が希望する講義を受講します。複数の講義を受講することも可能です。教科学習の枠を超え、高校での学習の先にある「新たな学問探求への刺激」をいただいています。

＜アドバンス教育コース＞

平成22年度入学生から、人間力・進路実現力をさらに高めるために設置したコースで、2年次から選択できます。教員として必要な幅広い教養、コミュニケーション能力を身に付けることができることから、教員志望の生徒を中心に受講しています。

コース受講生徒は、校内にある『ビオトープ・里山ゾーン』を利用して行われる、地域の小学生の自然体験活動に主体的に関わり、シティズンシップも育んでいます。

▶アドバンス教育コース「教育入門Ⅰ」主な授業内容

実施時期	内　　容
4月～5月	バースデイチェーン 自分の過ごしてきた色の記憶 人を見る目 自己開示について
6月	エゴグラム（性格診断） ・3つの自我状態となりたい自分 ・OKグラムとの比較分析
7月	コミュニケーション論 ・アイスブレイク ・人とのつながり
9月～10月	コミュニケーションワーク
11月～2月	アサーショントレーニング （自己表現・自己主張） まとめと振り返り

＜大阪教育大学キャンパスガイド＞

11月21日に実施された大教大キャンパスガイドには、アドバンス教育コースの受講生を中心に42名の生徒が参加しました。生徒たちは大学を肌で感じ、豊かな心をもつ人間にしかできない教員という仕事の素晴らしさを感じていました。そして、本校生だけでなく32校の生徒が高校の垣根を越えて学び、交流できたことがなにより貴重な体験になっていました。

大学トピックス

TOPICS

本学サッカー部が1部リーグ昇格

関西学生2部Aリーグで奮闘する本学サッカー部の1部昇格をかけた神戸大学との最終戦が、柏原キャンパス人工芝サッカー場で行われ、本学が2-1で勝利し、同リーグ2位で2年ぶり1部昇格を果たしました。

前半開始1分に堀江修平選手（スポーツ専攻4回生）がミドルシュートで先制するも、後半直後の3分に同点に追いつかれました。後半22分にMF久瀬恭平選手（同3回生）のアーリークロスをFW河原陽選手（同4回生）がダイビングヘッドでゴールし、このリードを守ったまま試合終了のホイッスルが鳴りました。

チームを引っ張ったキャプテンの田中脩史選手（同４回生）は「優勝が目標だったので、2位で悔しさもある。後輩たちには1部定着、インカレ出場を目標に頑張ってほしい」とエールを送りました。

総監督の入口豊理事・副学長は，「創部100周年の記念イヤーに素晴らしい結果を出せた。けが人が多く苦労したが、リーグ最少失点で、しっかりと守ることができるチームだった。選手たちがたくましく成長してくれたことが何よりうれしい」と喜びを語りました。

女子ハンドボール部が全日本インカレで3位入賞に輝く

高松宮記念杯平成27年度全日本学生ハンドボール選手権大会（通称：全日本インカレ）で、本学女子ハンドボール部が3位入賞に輝きました。

同部は西日本第2シードで出場し、国士舘大学、東海大学、日本体育大学を下し、全国の強豪校相手に快進撃を見せました。準決勝では関東1位チームの東京女子体育大学に20対21で惜敗しましたが、堂々の表彰台入りを果たしました。

同大会では、堀川真奈さん（スポーツ専攻4回生）が優秀選手に選ばれ、「4年間の締めくくりに受賞できて本当に嬉しい。監督、コーチ、トレーナーの熱い指導と、チームの仲間たちとともに頑張った成果です」と喜びを語りました。また大会の結果について、「昨年度準優勝の偉大な先輩たちが引退し、新チームでどこまで行けるのか不安でしたが、監督をはじめチームスタッフ、保護者やOGの方々、体育会の仲間たちなど、多くの支えのおかげで入賞できました。これを励みに，今後に活かしていきたいと思います」と周囲への感謝の言葉で締めくくりました。

編集後記

誌面の編集を担当しています。文章や写真をレイアウトする、つまり人からもらった原稿をこねまわしてA4サイズに押し込むお仕事です。原稿を書くという生みの苦しみに比べたら楽なもの…と思えばこれがそうでもなく、あと1文字が入りきらなくて行があふれたり、逆に文章が少なすぎたり、写真の加工が必要だったりと、いつも頭を抱えています。大学関係の記事は何とでもなりますが、特に加盟校紹介やリレーエッセイは、生徒のために工夫を凝らしたさまざまな取り組みや、教育に対する熱い思いのこもった文章を削ったり書き換えたりすることになるので（今回は削っていません…念のため）、いつも申し訳ないというか胃が痛いというか…。大事なエッセンスだけはとりこぼさないよう気をつけますので、今後ともご指導のほどよろしくお願いいたします。 （F）